

## 日本語⇔中国語コンバート

## 会計データの連動を実現

中小企業の間でも中国進出を検討するところが増えてきた。しかし、中国特有の税務処理や会計処理がネックとなり、中国進出に二の足を踏んでしまう経営者も少なくない。こうしたなか、日本語と中国語をコンバートすることで、現地法人と日本本社のデータを連動させる財務会計ソフトが登場した。

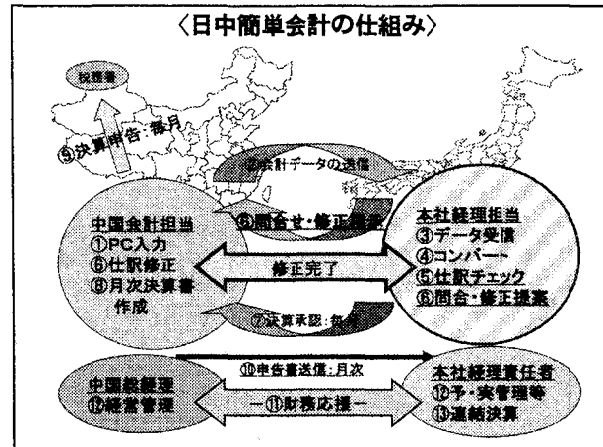
**中**国進出を果たした日本企業の多くが、現地の会計処理に戸惑いを感じている。実際、中国の会計では、あいまいな勘定科目が多用されているほか、資産や負債、経費の内訳が不明など、日本の処理と異なる点が多々ある。さらには、コミュニケーションの障壁もネックとなり、現地企業や中国人の会計担当者に処理内容の説明を求めても、適切な回答が戻ってくるケースは少ない。

そこで、㈱葵ビジネスコンサルタンツ（東京・大田区、代表取締役＝横田昭夫税理士）は、日本会計と中国会計の両方で作成できる財務会計ソフト「日中簡単会計」を発売した。同ソフトは、日本の会計士と中国の会計士の協力によって誕生したもの。中国政府承認および上海市承認を受けており、印刷された帳票はそのまま税務申告書類として使用できる。

また、同ソフトの大きな特徴は、日本本社がリーダーシップを発揮

し、日中間のシームレスな会計処理を実現できる点だ。具体的には、中国の会計担当者が中国語で入力した会計データを、日本本社において日本語で細かくチェックすることができる。そのため、中国側の会計処理の不明点や疑問点が明確になり、日本の経理担当者でも現地法人に対して適切に質問することが可能となる。与信管理や部門別管理もできるため、日本から経営管理の指示を与えることも可能だ。

さらに、セイコーエプソン㈱の会計ソフト「財務応援Lite」が標準でセットされており、日本語でコンバートされた会計データをそのまま取り込むこともできる。「中国版会計ソフト・CKK」、「日本版会計ソフト・JKK」、



「財務応援Lite」という3つのシステムにより、一貫した会計データの連動を実現させる画期的ソフトといえる。

中国現地法人の会計を日本本社でコントロールできる「日中簡単会計」。すでに中国進出を果たしている企業はもちろん、今後進出を考えている経営者にとっても、同ソフトは大きな武器となりそうだ。